

<b>授業科目名</b>	人間教育学ゼミナール（応用）(2100310)		
<b>時間割名</b>	人間教育学ゼミナール（応用）(52115)		
<b>時間割担当</b>	松井典夫		
<b>実施期</b>	通年	<b>単位数</b>	4 必修 選択
<b>曜日・時限</b>	金・2		

### 授業の目標・概要

卒業研究に向けて論文や制作活動を行う。自らの専門分野についての研究をまとめ、形にすることによって、自らの人間教育学に関する学びの集大成とする。

### 学習の到達目標

学校教育に関する知識・理解 教師の資質・能力について 教育の現代的課題について  
以上の三点についての理解と認識を深め、研究した成果をまとめることを目標とする。

### 授業方法・形式

それぞれの学習テーマに対して、論文や参考図書の購読、実地調査などを行いながら授業を進めていく。  
それぞれが取り上げるテーマに関するディスカッション等を行いながら学習を深めていく。  
また、研究会などに参加し、実地的に学ぶ機会を持つ。

### 授業計画

第1回～第7回

それぞれが設定したテーマの資料収集を行い、ディスカッションを行いながらプロットを確定していく。

第8回～第15回

必要な資料収集及び学校現場への視察等を行いながら、まとめ作業を行っていく。

第16回～第23回

収集した資料をもとに、研究テーマのまとめを完成させる。

第24回～第30回

完成したまとめを、学内発表等を通じて共有し、実践的な力へと結びつけていく。

### 成績評価の基準

授業中に行う活動や小レポート評価し、授業に対する関心・意欲・態度や理解度を評価する（40％）

課題レポートにおいて、課題探究の深さ、緻密さ、斬新さなどを評価する（30％）

学期末レポートにおいては総合的な理解を確認する（30％）

### 準備学習・復習及び授

授業時に、次回以降の学習テーマについて、予習する内容を具体的に伝える。必要に応じて提出も課する。復習についても同様。

### 履修上のアドバイス及

ICTを効果的に活用するためには指導者（教師）がICT機器の操作は勿論のこと、ICT機器の持つ特徴や用いると効果的な場についての十分な理解が必要不可欠であることを捉えて欲しい。

### 教材・教科書

その都度紹介します。

### 参考書

各自のテーマに応じたものを、授業内で指示する。